

社会保障こぼれ話

社会保障制度の管理・運営費

アメリカの社会保障庁では、ILOによる各国の社会保障費にかんする報告（Basic Table, 1976）を用いて、一部の国々における社会保障制度の管理・運営費が検討された。老齢・廃疾・遺族給付制度では、その費用の給付費に対する比率は、西ドイツの1.3%が最低、日本の10.6%が最高で、他の国々は2～3%であった。このような結果の理由として、比較に用いた資料の背後や中味が考えられている。たとえば、西ドイツでは、大部分の制度が州レベルで実施されるので、表の全国的な数字に州レベルの数字が反映されていないとされている。

健康保険では、カナダの2.3%が最低、スイスの11.2%が最高で、その他の国々は4～6%とされ、日本は4.0%であった。カナダでは、制度が基本的には州レベルで実施され、スイスでは、全国的な統一制度的の欠けていることが指摘されていた。

また、各種の給付を含む現金給付の管理・運営費について、1966年と1971年を対比すれば、その比率はノルウェーとイギリスは後者が僅かに高く、カナダは同一で、その他の国々はいずれも若干低下している。低下の理由には、インフレと制度の拡充により、急速に給付水準の上昇したことが示されている。

Max Horlic, *Administrative Cost for Social Security Programs in Selected Countries*, Social Security Bulletin, Vol. 39, No. 6, P. 36, 56.

（社会保障研究所 平石長久）

編集後記

今年の夏には、ヨーロッパで猛烈な暑さが伝えられたのに、日本では、例年より暑い日が少なかった。むしろ、涼しい日が多く、冷夏とさえいわれていた。そのせいか、今年の秋はいつもより早い馳け足でやってきた。例年ならば、一雨毎に気温が低くなってゆくのに、今年は9月の中頃に早くも10月中旬の気温になっていた。天気図は北極から吹き出されて来る冷氣は矢張り異常気象といわれるのだろうか？ このような年には、農業は大きな打撃を蒙るが、紅葉も異常な気象の影響を受けるものだ。都会の並木に降る雨に、冷たい雨に濡れる深い山々の紅葉を想う。

（平石）

海外社会保障情報 No. 35

昭和51年10月20日発行

編集兼発行人 社会保障研究所

〒100 東京都千代田区霞が関3-3-4

電話03(580)2511

製作所 和光企画出版株式会社03(564)0338